

WITボード&ガバナンス研修のご案内

経営チームとボード（理事会・取締役会）は、団体成長への鍵です。アメリカでは最近ボードの役割や内容について学ぶ機会がふえてきた一方、日本ではNPOや社会起業団体向けのマネジメント講座は事業計画など一部の分野に留まり、ボードに焦点を当てたものはほとんどありません。

WITのボード&ガバナンス研修では、日本や海外の事例を用いながら、講義とディスカッション、グループワーク等を通じて、ボードやガバナンスについて学んだり、参加団体・者同士の多様な視点や経験に学びあったりしながら、自分の組織で活かせるアクションやインサイトを探求していきます。

NPO/社会企業の代表、事務局スタッフ、幹部、ボード（理事、取締役、監事）のみならず、社会起業に関わってみたいビジネスパーソンの方も是非ご参加ください。

■ 研修の参加者

- 社会的ミッションを持つ組織（NPO・社会企業・財団等）の事務局・経営リーダー層や、ボードメンバー（理事・取締役・監事）
- NPO・社会企業のマネジメントに関心のあるビジネスパーソン

これまで、オンライン、東京、仙台、石巻、大阪、京都で計22回開催してきました。

今後は対面での研修とともに、オンラインでの研修に力を入れ、場所を問わずご参加いただける学びの場をもっていくことを予定しています。

■ 研修の特徴

- 下記の要素を組み合わせ、参加型で学びを深めていくデザインです。
 - ①社会的ミッションを持つ組織の経営、ボード、ガバナンスのコンセプトや実践について、レクチャーから学ぶ
 - ②ケース事例を題材としながら、参加者が学んだことや経験値を活かして、グループ議論で学びを深める
 - ③参加者自身が関わっている団体の課題や実践例を共有しながら、アクションプランや課題解決に取り組む

ケーススタディ
事例に触れる



経営やガバナンス
コンセプトを学ぶ



互いの事例を話す
ディスカッション

- 主催： 一般社団法人WIT (<http://worldintohoku.org/>)

■ コンテンツアドバイザー：

駒田 和也（公認会計士、NPO法人 Accountability for Change 代表理事）
 新川 真代（公認会計士、NPO法人 Accountability for Change 事務局長）
 及川 弘文（公認会計士協会準会員、NPO法人 Accountability for Change メンバー）
 BLP-Network（Business Lawyers Probono Network）
 クリスティーナ・アメージャン（一橋大学教授、WIT Senior Accelerator）

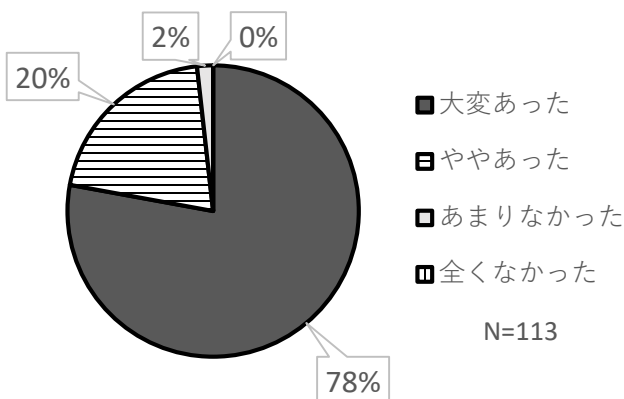
コース	テーマ	学べる内容
基礎	ボード、ガバナンスの意味と、3つのガバナンス・モード	<ul style="list-style-type: none"> • ボードの役割、ガバナンスの意味 • 理事長、理事、事務局長、スタッフなどの役割の違い • NPO・社会企業の経営における議論・対話の方法（3つのモード）： ハーバード大学教授らの開発した、ガバナンスの3つのモードのフレームを用い、多様な視点を活かしながら議論するコツを学びます。 • ケース事例： NPOの破産事例から、ボードの役割を議論
応用	ボードをつくる	<ul style="list-style-type: none"> • 多様性がボードや団体にもたらす価値 • 団体の成長・変遷とボードの変化 • 組織とボードの構造（委員会、アドバイザー、複数地域での活動など） • ボードの構成（メンバー、人数）、現状と理想のボード構成を分析 • ボードメンバーの候補人材の開拓・募集の方法 • ケース事例： NPOの合併事例から、団体の変遷とボード構成の変化、ボードの役割を議論
	ボードを運営する、ボードの評価	<ul style="list-style-type: none"> • ボードの運営の仕方（年間の流れ、理事会の運営、理事会以外のコミュニケーションなど） • ボードの意思決定事項、アジェンダのつくり方 • ボードや経営陣のパフォーマンス評価
	財務会計とボードの役割	<ul style="list-style-type: none"> • 建設的な予算計画の策定とPDCAサイクル • 資金調達とボード • ケース事例： 架空の法人でのシミュレーションワークで、財務をみるのボードの視点を議論 • 余剰金、間接費、人件費等の考え方 • ステークホルダーへの情報開示（ディスクロージャー）
	ボードと倫理、法務	<ul style="list-style-type: none"> • ボードと倫理、利益相反 • ケース事例： 不祥事の事例から、ボードの役割を議論 • 団体のリスクポイントを分析
	社会性・事業性の両立とボードの役割	<ul style="list-style-type: none"> • 社会性と事業性の両立、KPI（主要経営指標）の設定 • システム思考、セオリーオブチェンジ、ロジックモデル • エコシステム・マッピング：外部環境とボードの役割 • 組織のエンドゲーム：最終的に組織が目指す姿 • ケース事例： 社会性と事業性の両方を考慮した経営判断について議論
	ボード・カルチャー	<ul style="list-style-type: none"> • スタッフとボードの関係性 • 目指すボードのカルチャー、関係性をどうつくるか
	チェンジ・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> • 団体の成長ステージの変化 —成長ステージとボードのAlignment <ul style="list-style-type: none"> • 他地域展開 • 同地域での新規事業立ち上げ、事業多角化 • 同地域での事業拡大 • 団体の戦略の変化 —戦略とボードのAlignment • ボードの交代 • 経営陣の交代

※応用コースは、選択式で受講できる短時間のオンラインコースを開発中です。

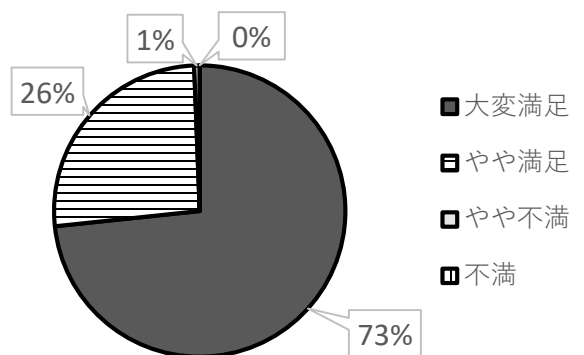
- ❖ 推薦の言葉 「私もよくソーシャル・ベンチャーのボード（取締役会/理事会）に参加するのですが、成長する起業家はボードの使い方がうまいと感じます。WITのセッションは、（私も前回参加しましたが）ボードの使い方を学ぶために貴重かつ有益な機会だと思います。ボードでの良い議論を導くためには、良い「問い」を立てることが必要です。**この実践的なトレーニングを通じて、参加者の皆さんは「問い」を立てる名人になると信じています。**」 — 山中礼二、グロービス経営大学院
- ❖ 「最初は二人で始めた「きずなメール」の事業をさらに広げようとしたとき、何人かのスタッフが加わって「組織」になり始めました。でも事業型NPOの「組織」を有効に機能させるためのノウハウや実例は、日本にまだほんのわずかしかなかった。そんな中、非営利組織の本場・アメリカの実例を学べる貴重な機会として講座に参加したところ、それまでは**未消化だった「ボード」「ガバナンス」といった用語が一気に自分ものになりました。**非営利組織が事業の透明性を担保しながら活動を広げていく実践的なヒント満載で、さっそく自分の団体で試しています。」 — きずなメール・プロジェクト、大島由起雄
- ❖ 「今までいくつかのNPOに所属してきましたが、末端の事業スタッフだったので、理事会は縁遠い世界でした。今後は、**組織の形成や強い経営基盤を創り上げることに関わりたいので、理事会の活用もいい視点です。**」 — 土岐三輪、NPO法人ピースウィンズ・ジャパン（当時）
- ❖ 「**まさに今自分に必要なテーマであること**、このような勉強会に出会えた偶然に驚いています。社団法人立ち上げたばかりのため知らなくて損していることがあれば教えてほしい。」 — 式町久美子、一般社団法人日本プロポーザルマネジメント協会
- ❖ 「NPOの**ボードが持たなければならない多角的な視点**についてよく理解することができました。」 — 今野純太郎、NPO法人Switch
- ❖ 「今まで団体の中で自分の担当についてのみ考えていれば良いポジションでしたが、**もっと意見を述べて団体そのものが良くなるように行動してもいいんだと気づかされました。**」 — 阿部ひろみ、ぐるぐる応援団
- ❖ 「ボードガバナンスについてもやもやしていたことがクリアになった。事象は違うけど（異なる団体間で）似てる問題が多いんだよね。震災の3年後までは課題共有の場がそこそこあったけれど今はあまりないので他団体の課題の共有を深めたい。」 — 小笠原直美、NPO法人ガーネットみやぎ
- ❖ 「**NPOの理事会について、言語化、体系化した内容を学べた。**今までぼんやりとしていたけど、NPOならではの難しさや、解決方法を学びました。規模が拡大したり、外の環境が変わったりと情勢は変わっていくもの。違うタイプの理事、多様性をもたせるということ。そしてそのために、チームの信頼がベースに必要なことを痛感、普段から強み、弱みを出しあえる組織が結果としてダイバーシティや組織の強さしなやかさを生み出せると思いました。」 — SVP東京パートナー

【参加者の98.2%が自分や関わる団体への学びがあったと回答しています】

自分や関わる団体への学びがありましたか？



研修の全体的な満足度



2016年6月～2018年7月開催の研修参加者³

【ファシリテーター兼講師】

山本未生 WIT 共同創設者兼代表理事

国境やセクター、世代などの境を越えて、一人ひとりが社会を良くする一步を踏み出しあえるエコシステム、Change-making Communitiesを人生のビジョンとして活動。東京大学在学中、マレーシアの非営利団体での経験を通じて、戦略・ネットワーク・資金の不足が、非営利団体のミッション達成を妨げていることを実感。卒業後、住友化学で働きながら、社会起業家支援を行い（SVP東京）、ビジネススクール、マッキンゼー&カンパニーを経て、2011年、東日本大震災を機に現WITを共同設立。2013年より同代表理事。2005年東京大学教養学部総合社会科学科国際関係論過程卒業。2013年MITスローン・スクール・オブ・マネジメントでMBAを取得。ボストン在住。



吉岡 利代 WIT ファシリテーター・講師

国際人権NGOヒューマン・ライツ・ウォッチの上級プログラムオフィサー。高校、大学を米国と英国で過ごす。留学から帰国後、ゴールドマン・サックス証券の調査部に勤務したのち、幼少時代からの目標を達成するため国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の駐日事務所にて日本国内の難民申請者の保護活動に従事。2009年4月、ヒューマン・ライツ・ウォッチ東京オフィスの創設メンバーとなり現在に至る。The 41st & 44th St. Gallen Symposium参加者、2011年Tofu Projectメンバー。2011年AERA「日本を立て直す100人」に選出。2011年世界経済フォーラム(WEF) Global Shapers Community (GSC)東京ハブに選出、2013年度キュレーター（代表）。



【コンテンツアドバイザー】

Accountability for Change （講師も兼任） <http://www.accountability4change.com/>

Accountability for Changeは、公認会計士を中心として構成されるプロボノネットワーク団体です。専門性を活かした社会貢献活動を通じて、ソーシャルセクターの健全な発展に寄与するとともに、次世代の会計プロフェッショナルの育成を目指しています。会計の専門性を活かした支援は、中長期的なマネジメントでこそ最も必要とされるものです。様々なフェーズのNPOや社会起業団体のボードにおいて、合理的な経営判断ができ、なおかつ将来ビジョンを描けるような、実務直結型の講義を行います。



Christina Ahmadjian

一橋大学の商学研究科教授。三菱重工業、日本取引所（東京証券取引所の親会社）取締役、北海道大学の経営協議会の一員を務める。コーポレートガバナンス、リーダーシップ、資本主義とグローバル化の比較制度の研究を専門とする。

BLP-Network <http://www.blp-network.com/>

ビジネス法務を専門とし、NPO等の支援を積極的に行っている弁護士のグループ。

【共催、会場等のご協力をいただいていた皆さま】



NPO法人マドレポニータ
株式会社ウエダ本社
河合将生 NPO組織基盤強化コンサルタント office
musubime
環境共育事務所カラーズ
公益財団法人 関西カウンセリングセンター
京都移住計画
京都市ソーシャルイノベーション研究所 前田展広
一般社団法人 ころ館

NPO法人 Co.to.hana
サービス Grant 岡本祥公子
株式会社 サロンドロワイヤル
NPO法人 SEIN
ダイバーシティズン
NPO法人 地球デザインスクール
Fruitmachine Japan
NPO法人 場とつながりラボ home's vi
一般社団法人 リリース